

「地はおのずから実を結ばせるもので、初めに芽、つぎに穂、
つぎに穂の中に豊かな実ができる」 マルコ4:28

「生命力」の育ちの不思議を、イエス様は「神の国」のたとえの中で語っておられます。

種が地下で発芽し、土を押し分け、地上に顔をだし、やがて茎、葉、実と育っていく。どうしてそのように育っていくのか、人の目には不思議でならない。

もっとも、そのような不思議に目を留めることもなく、気づくこともなく過ぎていくわたしたちの日頃の生活ではあります。

自然の中のすべての命がそうであるように、あの子どもたちの命も、私たちの知らないところで、絶え間なく育っています。

ただし、その成長には順序があるのです。伸びていく段階があるのです。

いきなり、葉っぱを求めたり、実を探したり、不自然なことです。

芽が出ると嬉しくなって、早く伸びよ、大きく育てとばかりに、水やりに精を出し、大事にしすぎて、かえってせつかく出た目を摘み取り、育つ力を阻んでいることがあるのではないのでしょうか。

あせってはいけません。子どもを育てる秘訣は、昔も今も変わりなく、

“一 ^ま待ち、二 ^ほ褒め、三 ^{いの}祈り”と言われているではありませんか。

子どもは子どもなりに、本能的に「大きくなりたい」と願っています。

できるだけ、周りの大人たちの私どもは、子どもの育ちを、そっと援助できるといいですね。

「お母さん、大好き、お母さん、大好き、
神様、ありがとう、お母さんをくださって。」 幼児さんびか11

怒りんぼママ、でもやさしいママ、子どもにとっては“世界一大好き、大切な存在のお母さん”。

ある子供は「眠りたくない。目がさめた、ママがいなくなっているかもしれないから」という不安を抱いているのだそうです。子どもなりに大人の顔色を見ているのです。特にお母さんの気持ちには敏感です。

毎日、毎日お母さんは忙しいですね。本当にご苦労様です。

神様から託された大切な命、親として足りない部分があっても、子どもたちは受け入れ、母の愛を信じて頼りにしています。

子どもも一緒に親御さんとの愛を育てているのですね。